

「ICTを活用した主体的な学修環境の構築」

～ 京都産業大学の実践事例 ～



京都産業大学について

- ・ 京都市北区に位置する一拠点総合大学
- ・ 9学部, 9研究科
 - 経済学部, 経営学部,
法学部, 外国語学部,
文化学部, 理学部,
工学部,
コンピュータ理工学部, 総合生命科学部
- ・ 学部学生数 12,961名 (H23.5.1現在)
- ・ 専任教員数 317名 (H23.5.1現在)

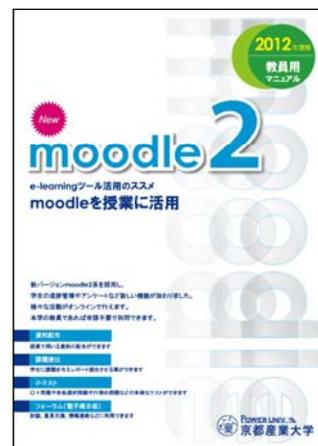


LMSとは

- Learning Management System
学習管理システム ※本学では「学習支援システム」
- 教員による教材・資料の保管・蓄積、学生への教材・資料の配信、学生のレポートや小テストの成績などを統合的に管理する eラーニングシステム
- 授業時間外学習を促すには欠かせないシステム

京都産業大学のLMS

- Moodle (ムードル)
 - オープンソース
 - 2005年度から全学部の共通基盤として運用開始
 - 専任教員の76%, 非常勤講師の42%が利用
 - 学部学生の90%が利用



導入推進組織

- ・ 大学の教育研究用情報基盤を検討する『情報教育委員会（現：情報基盤運営委員会）』で導入を検討して決定
 - － 情報センターで詳細を調査して提案
 - － 情報センターの事業計画として予算化
 - － 運用・管理の主管も情報センター

ICT関連の組織的背景

- ・ 情報センター
 - － 大学事務局部門（センター長も事務職員）
 - － 教育研究システム担当
 - － 事務システム担当
- ・ 情報基盤運営委員会
 - － 委員長は副学長，情報センターが事務取扱
 - － 各学部等から選出された教員により構成
 - － 情報センターも委員として参加

Moodleに至った背景

- ・ Webベースの授業支援システムの導入については2000年頃から検討していた
- ・ 独自に開発した「課題提出システム(2002～)」、「クラス掲示板システム(2003～)」の運用実績
- ・ 学内一部での利用実績(Moodle, exCampus)
- ・ 情報センターではLinux等オープンソースの運用実績

運用体制

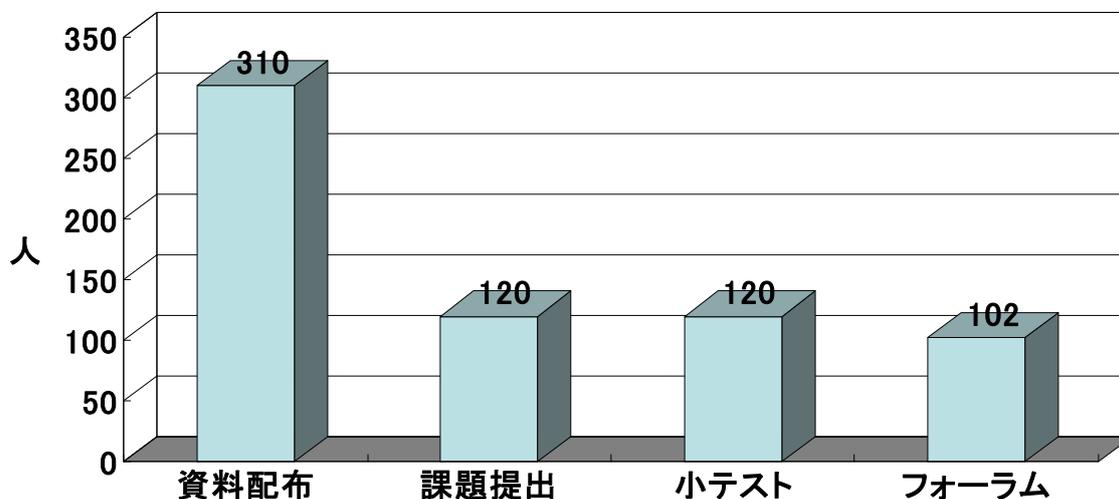
- ・ 情報センターでの運用
 - － 委員会を通じて運用方針の策定
- ・ 利用者(特に教員)の利便性を考慮
 - － 授業・履修データの自動連携
 - ・ 教員による履修者登録や利用申請は不要
 - ・ 使いたい時にすぐに使える環境
 - － 利用マニュアルを全教員(非常勤含む)に配布
 - － 専用ヘルプデスクの設置

オープンソースの利点・欠点

- ・ 利点
 - ソフトウェアライセンス等の経費はない(無料)
 - やらうと思えば独自のカスタマイズも可能
- ・ 欠点
 - 確実なサポートは得られない(自己責任)
 - 不定期なバージョンアップや不具合も
 - マニュアル等も自分たちで作成

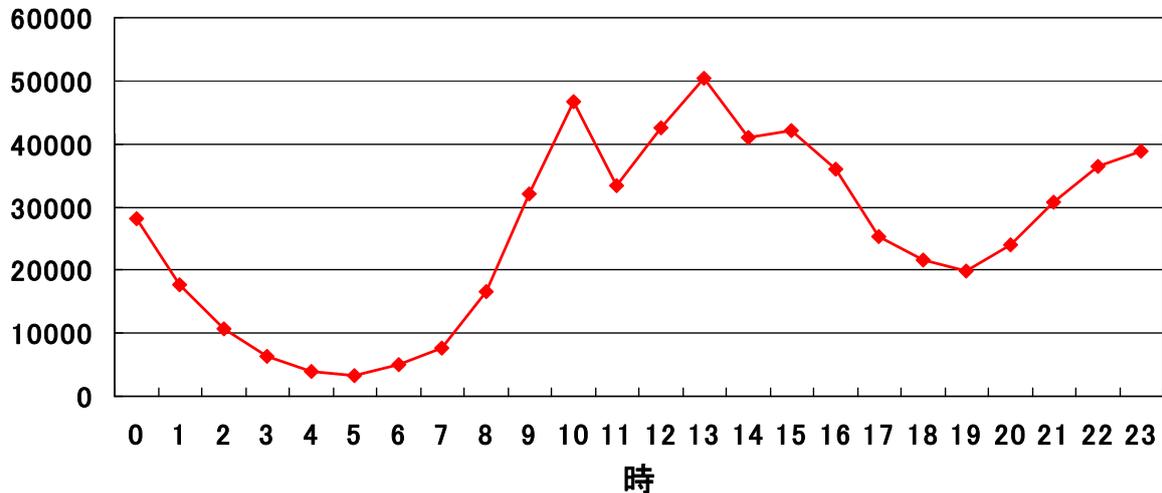
Moodle利用状況①

主要機能別利用状況



Moodle利用状況②

学生の時間帯別年間総ログイン数



組織的活用事例①

- ・ 情報倫理教材 (INFOSS情報倫理)
 - Moodle上で動作する, 情報倫理に関する e-Learning 教材
 - 全新生を対象に2006年度から実施
 - 委員会を通じて各学部に新生を対象に実施を要請
 - 新生全員がMoodleを利用することになる

組織的活用事例②

- ・ 多読学習プログラム
 - 共通教育科目の英語教育で活用
 - 授業時間外に多読という反復練習を行い，学習時間を確保し，自律的学習を促進
 - レベルに合わせた英語小説の簡易版(図書館)
 - Moodleで小テストを受けて多読記録を管理
 - MoodleReaderモジュールの組み込み
 - 私情協 平成22年度「ICT利用による教育改善研究発表会」で『奨励賞』を受賞

最後に

- ・ ICTは使われてこそ価値がある，特に教育用ICTは教員の協力と理解が欠かせない
- ・ そのためには，提案する側が教員からの信頼を得る努力が必要
- ・ ICTは導入コストだけではなく，運用コストも無視できない